

図画工作科



【授業改善に向けて】 ----- 図画工作 1

【学習指導要領改訂の趣旨を生かした図画工作科の実施のために】 -- 図画工作 2

【実践事例1】 ----- 図画工作 3
第2学年 題材名「たのしく うつして」

【実践事例2】 ----- 図画工作 8
第5学年 題材名「ミラクル! ミラーステージ」

〈 図 画 工 作 科 〉

【授業改善に向けて】

1 主体的・対話的で深い学びについて

これまでの図画工作科の指導では、個性や創造性が重視される中、児童にとって意味のある造形活動にするため、児童の側に立つ「価値ある題材」の展開を構想し、実践を積み重ねてきた。また、従来、心と体を使って触れたり感じたりする体験や、人との関わりを通してよさを実感する活動を重視してきた。

今後は、主体的・対話的で深い学びの視点に立ち、「造形的な見方・考え方」を働かせること、活動と学びの関係性や活動を通して何が身に付いたのかという観点を踏まえながら、学習・指導の改善・充実を進めることが求められる。

授業の改善に当たっては、図画工作科における「造形的な見方・考え方」、つまり「感性や想像力を働かせ、対象や事象を造形的な視点で捉え、自分としての意味や価値をつくりだすこと。」を踏まえながら、次の3つの「学びの視点」を大切にして、実践に取り組む必要がある。

(1) 「主体的な学び」の視点

活動全体を通して意欲的な活動を積み重ね、つくりだす喜びを味わう、最後までやり遂げるなどの学習であることを踏まえた上で、発想や構想をする場面、技能を働かせる場面、作品などからよさや美しさを感じ取る場面のそれぞれにおいて、子どもが「見方・考え方」を働かせるようにすることが重要である。これまでの経験を生かすことのできる学習の充実を図ること、自分の活動を確かめたり振り返ったりする場面を設定し造形的な想像活動における自分の成長やよさや可能性などに気づき、次の学習につなげられるようにすることなどが大切といえる。

(2) 「対話的な学び」の視点

対話の対象や方法を考え学習活動を設定することが重要であり、一人で材料や場所、作品と向き合うなどの自分との対話を大切にしつつ、子どもが自分の「見方・考え方」を働かせて、表したいことや用途、用材や場所の特徴、表し方などについて、お互いの活動を見合いながら考えたことを伝え合ったり感じたことや思ったことを話したりするなどの言語活動を一層充実することが大切である。その際、保護者や地域、社会の人と交流する機会を設定することも重要といえる。

(3) 「深い学び」の視点

造形的な創造活動において、つくりたいことや表したいこと、見たいことなど、子どもが自ら課題を見付けることを重視している学習であることを踏まえた上で、一人一人が「見方・考え方」を働かせて、活動に取り組むことができるようにすることが重要である。具体的には、表現及び鑑賞の活動を通して育成する資質・能力を明確にし、それらを相互に関連して働かせることができる活動を設定することなどが挙げられる。

2 授業改善の視点

〈視点1〉造形的な創造活動の能力の育成を目指す授業の展開と工夫

- 育成する資質・能力と学習内容との関連の明確化
- 発想や構想の能力、創造的な技能、鑑賞の能力が関連しながら働くような授業展開
- 互いの表現のよさを感じ取るなど共に学び高め合う学習指導の展開

〈視点2〉発達に応じた適切な言語活動の位置付け

- 形、色など〔共通事項〕の視点を生かした言語活動の位置付け
- 「思考力、判断力、表現力等」を育成するための「話す、聞く、話し合う」活動の設定

〈視点3〉自分らしさを自覚し豊かな創造活動につながる評価の工夫・改善

- 評価基準の精選、自己評価、相互評価などの評価方法と評価場面の工夫
- 次時の意欲につながるよさや改善点が明確になる評価の実施

【学習指導要領改訂の趣旨を生かした図画工作科の実施のために】

1 移行措置の内容

図画工作科は、平成30年度及び平成31年度の第1学年から第6学年までの指導に当たっては、現行小学校指導要領第2章第7節の規定に関わらず、その全部又は一部について新学習指導要領第2章第7節の規定によることができる。

2 新学習指導要領で実施する場合の改善点と留意点

(1) 改訂の基本的な考え方

- 表現及び鑑賞の活動を通して、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を育成することを一層重視し、目標及び内容を改善・充実する。
- 造形的な見方・考え方を働かせ、表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させながら育成できるよう、目標及び内容を改善・充実する。

(2) 実施上の留意点

図画工作科は、目標や内容が2年間まとめて示してあるので、現行の学習指導要領との関連を明確にした上で実施するとともに、全面実施の年度を見通した、適切な指導計画を作成して指導する。

(3) 目標についての留意点

- 児童がつくりだす形や色、作品などや、家庭、地域、社会で出会う形や色、作品、造形、美術などと豊かに関わる資質・能力を働かせることが、楽しく豊かな生活を創造しようとするなどにつながることを理解して指導する。
- 「造形的な見方・考え方」が、図画工作科を学ぶ本質的な意義の中核となるものであることを踏まえ、児童がどのような視点で物事をとらえ、どのような考え方で思考していくのかをとらえ指導する。特に、児童が自分の感覚や感じ方を大切にする指導を重視する。
- 児童の活動が、造形的な創造活動となるようにつくりだす喜びを味わうようにするとともに、造形的な創造活動の基礎的な能力を培うことを充実させる。
- 現行学習指導要領で示されている「(1)造形への関心・意欲・態度」「(2)発想や構想の能力、創造的な技能」「(3)鑑賞の能力」と、今回の改訂で整理された学年の目標との関連を踏まえ目標を実現する。
- 目標の実現に当たっては、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の3つの柱で整理した資質・能力を関連させながら育成するものであって、別々に育成したり、順序性をもって育成するものではないことに留意する。

(4) 指導計画作成上の留意点

- 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善のために、表現及び鑑賞の活動を通して、児童一人一人が「造形的な見方・考え方」を働かせ、表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させた学習となるようにする。
- 「知識」の指導については、各学年に応じた造形的な視点をとらえられるよう指導する。
- 「知識」の評価については、指導と評価を関連させる。

(5) 内容についての改善点と留意点

- 「A表現」
 - ・ 「造形遊びをする活動」と「絵や立体、工作に表す活動」の指導事項の特徴が見えやすくなり、どちらの活動も充実する必要性が明確化されている。
 - ・ 特に「造形遊びをする活動」における「思考力、判断力、表現力等」に目を向け、授業改善することが大切である。
- 「B鑑賞」
 - ・ 「思考力、判断力、表現力等」の観点から児童がよさや美しさなどを感じ取ることが、児童の見方や感じ方を広げたり深めたりすることにつながる意識をもつことが必要である。
 - ・ 「話す、聞く、話し合う」などの言語活動を、内容の取扱いで「思考力、判断力、表現力等」を育成するための方法として示されている。
- 「共通事項」
 - ・ 表現及び鑑賞の活動で共通に必要なとされる資質・能力を「知識」と「思考力、判断力、表現力等」の観点から整理しており、表現及び鑑賞の各活動において十分な指導が行われることが求められている。

【実践事例 1】第 2 学年 題材名 たのしく うつして

1 題材の目標

- 型紙とたんぽを使って表すことを楽しもうとする。 (造形への関心・意欲・態度)
- ステンシル版の表し方を知り、何をどのように表すか考えることができる。
(発想や構想の能力)
- ステンシル版の表し方を用いて、型紙の置き方やローラーの使い方を工夫することができる。
(創造的な技能)
- できた作品を見せ合い、自分や友達の仕事の面白さや楽しさに気付くことができる。
(鑑賞の能力)

2 題材の展開にあたって

児童は、1年生の題材「うつしたかたちから」においてスタンピングとしての版画を経験している。身近な絵の具を付け、写した形から発想を広げ、楽しく絵に表している。また、版をつくるために必要なカッターを使う技能は、2年生の「まどをひらいて」において使い方を学習し、向きを変えて切ったり窓の形に切ったりすることで、窓が開く仕組みから自分らしい表現を楽しんだ。また、児童は、図画工作科の授業を、楽しい、好きであると感じている。しかし、自由に造形表現を楽しむ児童が多いが、なかなか表現するものやテーマが決まらない児童も数名見られる。発想で悩む児童や自己決定が難しい児童もいるため、丁寧に個別に支援する必要がある。

本題材は、初めて版をつくる版画題材である。今回は、クリアフォルダを使用して版をつくる。クリアフォルダを使用する事で、版画紙よりも丈夫で、水洗いや繰り返し使用にも耐えられるようになる。硬さはあるが、2年生児童でもカッターナイフで切ることができる材料である。また、着色は、たんぽを使ったステンシルの技法で表現する。ローラーと違い、濃淡やグラデーション等、自分の発想で表現を膨らますことができる。部分で表現していくため、繰り返しや反転、重なりなど、表現しながら発想を広げていくことができると考える。

指導に当たっては、教師の演示や参考作品を見せることで、具体的に活動をイメージさせて活動に取り組ませたい。導入時に学び合いの場を設定することで、アイデアや技法を共有化し、発想の苦手な児童のヒントとなるようにしたい。また、試行錯誤させるために試し用の画用紙を用意し、自信をもって表現活動を楽しむことができるようにする。同一の版を使用した、繰り返し、反転、重なりなど、いろいろな表現を工夫することができることを実感させたい。さらに、授業の終末や表現の途中段階で、作品を見合う時間を設定し、よさに気付かせたり、表現の幅を広げさせる機会としていきたい。

＜視点 1＞ 造形的な創造活動の能力の育成を目指す授業の展開と工夫

- 一人一人が試行錯誤し、自己決定しながら思いにあった表現ができるように、練習用の画用紙を用意し自由に試すことで、自信をもって表現ができるようにする。また、型紙を画面上で動かすことで、配置や連続性、重なりなども意識させ表現の幅を広げさせたい。

＜視点 2＞ 発達に応じた適切な言語活動の位置付け

- 導入で児童の作品や参考作品を取り上げて話し合わせ、自由な発想のおもしろさや技法のヒントになるようにする。また、活動の中でも自由に話し合わせることで、児童の発想を広げさせたい。

＜視点 3＞ 自分らしさを自覚し豊かな創造活動につながる評価の工夫・改善

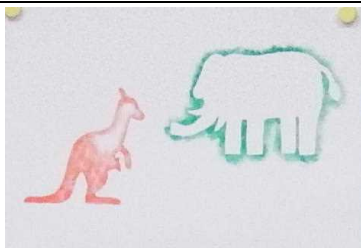
- 各時間の終末には、よくできたところや、工夫したところ、友達の作品のよいところなどを話し合わせ、お互いの発想や表現のよさに気付かせ、達成感を味わわせるようにさせたい。

3 題材の指導計画（総時数 4 時間）

時間	主な学習活動・内容	評価規準	授業改善の視点
1 2	ステンシル版のつくり方や刷り方を知り、どのようなことを表すか考える。	版画の表し方に興味をもち、自由に思いを表そうとしている。 【造形への関心・意欲・態度】 ステンシル版の使い方を知り、何をどのように表すか考えている。 【発想や構想の能力】	○ 実物を用意し、イメージをしながら活動できるようにする。〈視点1〉 ○ 児童の発想を共有しながらイメージを膨らませる。〈視点1〉
3 本時	生まれるものの形や色だけでなく、飛び出し方やお話についても発想を広げながら表す。	型紙とたんぽを使って表すことを楽しもうとしている。 【造形への関心・意欲・態度】 切り抜いた形から楽しい世界を想像し、形や色をイメージし、表したいものを考えている。 【発想や構想の能力】	○ 配置や色について話し合いイメージを広げる。〈視点2〉 ○ 試しを自由に行えるようにすることで、自信をもって表現できるようにする。〈視点1〉
4	必要に応じて他の材料を使ったり、かき加えたりして表す。自分や友人の作品を見合い、面白いと思ったことや感じたことを伝え合う。	版を置く場所を変えると感じが変わることを知り、型紙の配置を工夫している。【創造的な技能】 できた作品を見せ合い、自分や友達の作品のよさや面白さに気付くことができる。【鑑賞の能力】	○ 児童作品や参考作品を取り上げて話し合わせ、発想のおもしろさや技法のヒントに気付くようにする。〈視点3〉

4 展開の具体例（3／4時）

○ 切り抜いた形から楽しい世界を想像し、配置や色をイメージしながら表したいものを考える。

学習活動・内容	時間	○教師の支援	※評価
1 活動の見通しをもち、学習課題をつかむ。 (1)前時につくった型や参考作品を見ながら、表現の仕方を知る。 (2)めあてをつかむ。 形のなればかたや色をくふうして楽しいせかいをつくろう。	8	○ 児童がつくった型や参考作品を提示し使ったステンシル版で表現できるおもしろさやよさに気付かせ、本時の活動の意欲を高める。	 教師の参考作品
2 ステンシル版とたんぽを使って、自由に表す。 (1)ステンシル版でできる工夫について話し合う。	10	○ 全員で教師の参考作品を基に、配置や色について話し合い、イメージを広げる。 〈視点2〉	 参考作品を基にした学び合い



鑑賞から子どもの発想を引き出す



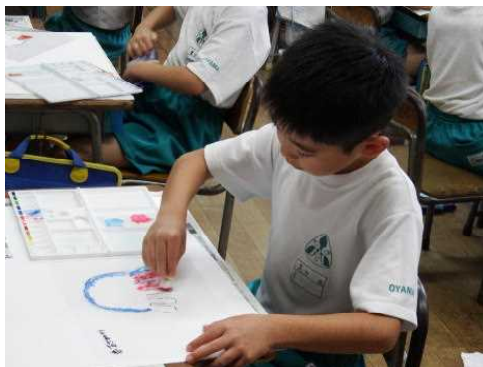
パフたんぽ

化粧用パフを使用してたんぽを作成する。ティッシュペーパーや刻んだパフを入れ、輪ゴムで縛る。

(2)配置や色を工夫したり、自由に試したりしながら表す。



配置や色を工夫しながら表す



部分で配色を変える

T：切り取った版は内側と外側，両方が使えます。
たんぽに絵の具を付けて，軽くたたいていきます。
一通り色を付けたら版をそっと外します。

C：うわあ，きれい。

C：すごい。スタンプみたい。

T：今回は，スタンプと同じようにできるので，何回も同じ形を並べられそうだね。
そして，ひっくり返すと・・・。

C：向きが変わる。

T：その他にも，いろいろな方法がありそうだから
みんなで試してみよう。

○ 演示したり参考作品を提示したりすることで，具体的なイメージをもって表現することができるようにする。

2 2 ○ 試すための画用紙を準備し，自由に使えるようにすることで，自信をもって表現できるようにする。

〈視点1〉

○ 色ごとにたんぽを用意し，自由に色を選択できるようにする。

C：試してみたら，色を変えてもできそうだよ。
T：すごいね。みんなにも紹介しよう。

C：コウモリだけど，ちょっと明るい青で色を付けてみようかな。

C：わたしのは宇宙人だけど，いろいろな色を付けて見たこともない感じにしたいな。

C：カラフルなイルカにしてみようかな。しましま模様もいいな。

○ 自由に話しながら表現できる雰囲気をつくるとともに，友達の表現のよいところを探することができるようにする。
〈視点2〉

C：Aさんのクラゲ，足の色だけ違うんだね。目立つ赤がきれいだね。

〈工夫すること〉

- ・形の組み合わせ
- ・同じ形の連続
- ・反転
- ・途中から版を変える

C：かわいいイルカが向かい合って、キャンディーを見ているようにしたいな。これから海のお菓子パーティーが始まるんだよ。



反転させ、左右対称な形をつくる



重なり、版の組み合わせ

T：新しいやり方を発見した人がいます。

C：ドラゴンが重なっていて面白いね。緑のドラゴンは角だけ色を変えてあって面白いね。

C：しっぽの途中から、内側の版を使って色を外側に付けたよ。ここはあとから絵の具で色をつけるんだ。

○ 気付きはできるだけ全体に広めるようにする。

C：きれいな色でカラフルに色が付けてあるね。

C：一匹だけ向かい合っていて、仲良しみたい。版を裏返したんだね。

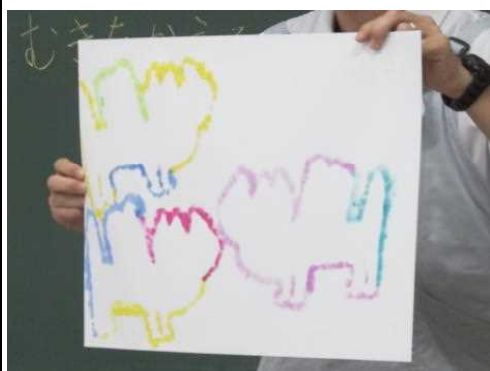
C：羽が生えたネコだよ。たくさんいて、みんなで集まって楽しく暮らしているんだよ。

○ グループで活動することで、用具の置き場を確保すると共に、友達同士が自然に表現を見合うことができるようにした。

C：その色いいね。僕も使ってみようかな。

C：ペンギンが大きくて迫力あるね。

C：版の外側を使うのもいいね。次はそっちを使ってみよう。



版の反転



グループの見合いながらの活動



配置や色を工夫しながら表す

C：カブトムシの色は、黄色じゃない方がよかったかな。カブトムシっぽくないかも。

T：黄金のカブトムシみたいに見えるから、いいんじゃないかな。



板書例

※ 型紙とたんぽを使って表すことを楽しんだ。

(観察)

※ 切り抜いた形から楽しい世界を想像し、形や色の組み合わせから、表したいものを考えることができた。

(観察)

- 3 表現を見合い、本時をふり返る。
(1) 本時の活動を振り返る。

- 5 ○ 自分らしい表現ができたことや、友達のよい表現を自分の言葉で伝え合うことで、達成感を味わわせる。
〈視点3〉



C：Bさんの宇宙人がカラフルでこんな宇宙人がいたらいいなと思いました。

C：Dさんの恐竜が重なっているところが工夫してあると思いました。

自由な鑑賞タイムと全体での鑑賞

5 実践の考察（成果：○ 課題：●）

〈視点1〉造形的な創造活動の能力の育成を目指す授業の展開と工夫

- 配置や連続性、反転、重なりなど、自分たちなりに気づきを共有し、表現の効果を感じ取ることができていた。
- 試し用の画用紙を用意したが、発達段階と学級の実態からあまり必要なかった。画面上で自由に試行錯誤する姿が多かった。

〈視点2〉発達に応じた適切な言語活動の位置付け

- 導入の段階で、イメージを膨らませるために全体で話し合わせたため、表現活動に入ってからスムーズに自分の表現に取り組むことができた。活動中も、反転や重なり、色の途中での変更など効果的な表現方法を全体に伝える事で、一人一人の表現を広げることができた。
- 話し合う活動において、造形的な語彙が不十分であるために、自分の思いを伝えきれない場面も見られた。普段の生活の中で「きれい」「すごい」などの言葉だけでなく、「鮮やか」「○○みたい」など語彙を意識させたり、見立てをしたりしていきたい。

〈視点3〉自分らしさを自覚し豊かな創造活動につながる評価の工夫・改善

- 終末において、全員の作品を鑑賞する時間、全体で話し合う時間を設定した。友達の作品のよさを素直に受け止め、称賛することができていた。
- 一人一人の思いやその変化を見取るために、下書きや学習カードなどに記録し、評価や表現の指導に生かしていく必要がある。

(文責 松浦 健)

【実践事例2】第5学年 題材名 ミラクル！ ミラーステージ

1 題材の目標

- 鏡のもつ面白さ、不思議さを生かして、材料を組み合わせでつくることを楽しもうとする。
(造形への関心・意欲・態度)
- 鏡の特徴を生かして表したいことを発想したり、視覚的な効果を考えて形や色の組み合わせを選んだりして、表し方を構想することができる。
(発想や構想の能力)
- 鏡への映り方を試しながら、材料の組み合わせ方や映し方を工夫してつくることができる。
(創造的な技能)
- 自分や友達の作品の鏡に映る世界を見合い、表現のよさや工夫をとらえたり、面白さに気付いたりできる。
(鑑賞の能力)

2 題材の展開にあたって

本題材は、鏡のもつ面白さや不思議さを生かして作品を作るものである。鏡の見え方の変化を利用したり、鏡を空間を広げる装置として扱ったりすることで試行錯誤しながら、自分の思いや発想を広げて活動するのに適した題材である。

本学級の多くの児童は、図画工作科の学習を、楽しい、好きであると感じている。しかし、描きたいこと作りたいことが思い浮かばないことや自分の思いどおりに作れないといった理由から図画工作科に苦手意識をもっている児童もいる。5月の題材「立ち上がれ！マイライン」では、針金の自在に形を形成できる特性を生かして発想を広げて立体を作ってきた。導入で針金をいろいろな形にできることを試したり、参考作品を見たりする活動をしてから製作に入ったところ、ほとんどの児童は、自分なりに工夫して作品を仕上げる様子が見られた。しかし、なかなか自分の作りたいものが発想できない児童も見られたため、参考作品のよいと思った部分をヒントにするよう助言してきた。6月の教材「くねくね糸のこパズル」では、電動糸のこをつかってパズルを作ったが、ここでも、自分の作りたいパズルの絵を発想できない児童が見られた。このことから、発想や構想のための手だてが必要であることが分かった。

本時では、試しの活動の時間を確保することにより形が変わったり数が増えたり、奥行きが出たりなどの鏡の効果の面白さを十分に味わわせ、制作への意欲を高めるようにしたい。また、児童が試しながら気付いた鏡の映り方や方法を共有化し、自分を取り入れたい技法を明確にもたせることで、発想したり構想したりすることが苦手な児童にも自分の作りたいものを考えるヒントになるようにしたい。授業の終末では、映り方の面白さや取り入れたい技法などについての感想や思いを引き出しながら振り返りができるようにしたい。ミラーステージの制作に当たっては、途中鑑賞を取り入れ、自他の作品の面白さ、よさや工夫に気付かせながら作品作りに生かせるようにしたい。

＜視点1＞造形的な創造活動の能力の育成を目指す授業の展開と工夫

- 一人一人にミラーを持たせ、自分の身近にある物や材料箱の中にある物を使って、鏡に映すことを試しながら、鏡の効果に気づき、映り方の変化を楽しむことができるようにする。

＜視点2＞発達に応じた適切な言語活動の位置付け

- 自分が映した物やどう見えたのか、どのようにすると変化したのかなどの気づきを全体に紹介し、言葉でまとめることにより、方法や映り方を共有化し、発想や構想に生かすことができるようにする。

〈視点3〉自分らしさを自覚し豊かな創造活動につながる評価の工夫・改善

- 形や色・映り方を工夫しながら活動したことを振り返り，自分や友達の作品のよさを感じ取り，称賛し合うことで意欲を高めていきたい。

3 題材の指導計画（総時数 6 時間）

時間	主な学習活動・内容	評価規準	授業改善の視点
1 本時	試しの活動を通して鏡に映る世界の楽しさや面白さを感じ取ることができる。	鏡を使って映り方を試すことに興味をもつ。 【造形への関心・意欲・態度】 鏡の効果を試しながら，映り方の特徴や面白さに気付くことができる。 【発想や構想の能力】	○ 試しを十分行わせることで，鏡の映り方の面白さに気付かせる。〈視点1〉 ○ 方法や映り方などの個々の気付きを紹介し合い，共有化させる。〈視点2〉
2 3 4 5	鏡の映り方の特徴をとらえて，自分のつくりたいミラーステージを構想する。 構想に合わせて材料を選び，ミラーステージをつくる。	進んで作りたいものを構想し，表そうとしている。 【造形への関心・意欲・態度】 材料の組み合わせや映り方を考えてつくりたいものを構想することができる。 【発想や構想の能力】 材料の組み合わせや映り方を試しながらつくることことができる。 【創造的な技能】	○ いろいろな材料で鏡の効果を試しながら，新たな発想を広げさせる。〈視点1〉 ○ 表現を見合う活動を通して，話し合い，さらに発想を広げたり，作り出す喜びを味わわせたりする。〈視点2〉
6	作品を鑑賞し，友達の作品のよさや工夫について話し合う。	自分や友達の作品の表現のよさや工夫をとらえている。【鑑賞の能力】	○ 形や色，映り方の工夫などを見つけ，表現のよさを味わう。〈視点3〉

4 展開の具体例（1／6 時）

- 試しの活動を通して，映り方の違いに気付き，鏡に映る世界の楽しさや面白さを感じ取ることができる。

学習活動・内容	時間	○教師の支援 ※評価
1 題材名から本時の学習について見通しをもつ。 (1) 例示を見て，見え方の変化に気付く。 ・ 形が増える。 ・ 奥行きが出る。 ・ 形が変わる。	10	○ 身の回りの物や紙で作った物を鏡に映して児童に見せることで，空間が広がったり，数が増えたりする見え方の違いの面白さを実感させる。 その際，児童が見やすいように，大きなミラーステージを使い，例示を行う。



例示を見ながら効果を考える子どもたち

(2) 本時のめあてを知る。

鏡を使うとどんな映り方を
するだろう。

2 鏡を使って映り方を試す。

- ・手前や奥においてみる。
- ・同じ形のものを並べる。
- ・平面を貼り付ける。



映り方を試す様子

C : これをどこにはろうかな？



立体に見える位置を探す様子

T : ペンは何本に見えるかな？

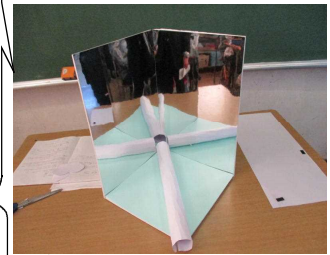
C : 4本に見える。

C : 3本かな？

T : 見る位置や置く場所でも数が変わるんだね？

T : これはどうかな？
画用紙を丸めた
だけなんだけど。
後ろには何もない
よ。

C : 奥にもあるように
見える。



教師の例示

- 20 ○ 一人一人にミラーシートを持たせ、自分の身近か
にある物や教師が準備した紙を使って、折ったり切
ったりしながら鏡に映し、楽しみながら鏡の効果
を楽しむことができるようにする。
- 置く位置や鏡につける位置を変えながら、試すよ
うに助言する。



C : どんな形にしたら立体的に見えるかな？

C : こうしたら立体的に見えたよ。

- 形や置き方を工夫していることを称賛し価値付け
る。
- 鏡の映り方を試しながら鏡の効果に気付くように
する。

〈視点1〉

※ 試しをしながら、鏡の効果に気付くことができた。
(つぶやき・活動の様子)

3 映り方を全体に紹介し、話し合う。 ・手前や奥においてみる。 →奥行きが出る。 ・1 つが4 つに →数が増える。 ・平面を貼り付ける。 →立体に見える。  児童から出された方法の類型化 4 本時の活動を振り返る。 (1) 感想を交流し、活動を振り返る。 (2) 参考作品を紹介する。	1 0  映り方の説明をする様子 C : ハートを真ん中に置いたら4枚に見えて、縦に置いたら2枚に見えました。 ○ 自分が試した映り方を紹介し、方法や映り方を共有化できるようにする。 〈視点2〉 ○ 児童から出された方法を類型化して板書する。 5 ○ 活動したことや鏡の効果についての感想を話し合い、活動を振り返る。 〈視点3〉 C : 1 つのものが増えたり、立体的に見えたりしたのが面白かったです。  感想を発表する様子
--	---

5 実践の考察（成果：○ 課題：●）

〈視点1〉造形的な創造活動の能力の育成を目指す授業の展開と工夫

- 一人一人が、試し用の紙を使って様々な形を作り、その映り方を試しながら「数が増える」「奥行きが出る」「立体的になる」ということに気付くことができた。また、両面折り紙を使うことで色の映り方の変化にも気付くことができた。
- 試し用の紙は四角い紙のみを準備していたため、児童は紙をどう使うのかが分からず、最初戸惑いが見られた。ある程度形になった物の映り方を試すところから行い、その後、自分で作った形を映してみるなど段階的に進める必要があった。

〈視点2〉発達に応じた適切な言語活動の位置づけ

- 児童が自分の試した方法やそれがどう見えたのかを紹介し、教師がそれを言葉で板書にまとめることで、方法や映り方の共有化を図ることができた。
- 児童の試しを映り方ごとに分類し板書にまとめたが、分類することが難しかったので、「数が増えたのはどんな時」「立体に見えたのはどんな時」「奥行きが出たのはどんな時」など視点を意識化する発問を工夫する必要があった。

〈視点3〉自分らしさを自覚し豊かな創造活動につながる評価の工夫・改善

- 活動を振り返ることで、鏡の効果や映り方のおもしろさを再認識することができた。
- グループ活動の中で友達と活動を認め合う姿があったが、振り返りの段階でも友達の工夫や作品のよさなどについても称賛し合えるとよかった。

（文責 黒澤順子）